

松永：人に関する情報科学・生理心理学／防災関連業績リスト

2005年

講演

荒木滋朗・崔正烈・松永勝也・志堂寺和則・日高滋紀・木下信博・塚本裕二・山崎伸一・平川和生：SHM 靴装着歩行時における大腿，下腿の回旋角度の比較．日本ME学会九州支部学術講演会，(2005.3).

荒木滋朗・崔正烈・志堂寺和則・松木裕二・松永勝也・日高滋紀・木下信博・塚本裕二・山崎伸一・平川和生・江西浩一郎：SHM 靴装着歩行時における大腿，下腿の回旋角度．生体医工学シンポジウム 2005（生体医工学会主催），(2005.9).

小野直洋・塚本裕二・酒向俊治・松永勝也・日高滋紀・木下信博：新発想のパンプスーヒール位置の違いによる筋活動量の変化ー，第 19 回日本靴医学会学術集会，p.s19，(2005.10).

木下信博・塚本裕二・山崎伸一・平川和生・松永勝也・酒向俊治：FootGrapher による幼稚園児の足型測定，第 19 回日本靴医学会学術集会，p.s25，(2005.10).

木下信博・塚本裕二・山崎伸一・平川和生・松永勝也・酒向俊治・小野直洋：新しい発想による変形性膝関節症予防の可能性(1)—SMH 機能付靴の運動生理学的研究—，第 19 回日本靴医学会学術集会，p.s31，(2005.10).

日高滋紀・木下信博・塚本裕二・山崎伸一・平川和生・松永勝也・酒向俊治・小野直洋：新しい発想による変形性膝関節症予防の可能性(2)—SMH 機能付靴の有効性・安全性に対する臨床研究—，第 19 回日本靴医学会学術集会，p.s31，(2005.10).

2002年

論文

早見武人・堀本修平・志堂寺和則・松永勝也：注視距離が眼球の水平回転に与える影響について．九州大学大学院システム情報科学紀要．Vol. 7, No.1, 19-22, (2002.3).

T. Hayami, K. Shidoji, K. Matsunaga: An ellipsoidal trajectory model for measuring the line of sight. Vision Research, Vol. 42, No.19, pp.2287-2293, (2002.9).

T. Hayami, K. Shidoji, K. Matsunaga, S. Horimoto, H. Matsugashita: Measuring visual axis as an independent variable from a fixation distance. Proceedings of 2002 IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics, (CD-ROM: 2002.10).

2001年

論文

T. Inoue, K. Matsunaga, Y. Matsuki, K. Shidoji: Reaction times and P300s latencies of youths and the elderly. Proceedings of International Conference on Traffic and Transport Psychology 2000, (Presentation: 2000.9) (CD-ROM: 2001.3).

早見武人・志堂寺和則・松永勝也: 楕円体推定による注視点測定. 九州大学大学院システム情報科学紀要, Vol.6, No.1, 59-64, (2001.3).

講演

井上朋紀・松永勝也・志堂寺和則: ウェーブレットを用いた時間周波数解析によるシミュレータ運転時の脳電位の分析. 日本生理心理学会第 19 回大会, (2001.7).

2000年

講演

井上朋紀・志堂寺和則・松永勝也: ドライビングシミュレータ運転時の認知・反応時間と脳電位の変化(2). 日本交通心理学会第 61 回大会, (2000.5).

早見武人・志堂寺和則・松永勝也: 楕円体推定と注視面補間を用いた注視点測定法の検討. 電気関係学会九州支部第 53 回連合会大会, (2000.9).

井上朋紀・志堂寺和則・松永勝也・松木裕二・丸山兼司: ドライビングシミュレータ運転時の認知・反応時間と脳電位の変化(3). 日本交通心理学会第 62 回大会, (2000,10).

1999年

講演

志堂寺和則・宮崎勲・松永勝也: 圧・光変換方式足底圧分布測定システムの開発とそれによる人の身体制御に関する研究. 身体動揺研究会第 6 回大会, (1999.3).

井上朋紀・松尾典義・松木裕二・志堂寺和則・松永勝也: ドライビングシミュレータ運転時の認知・反応時間と脳電位の変化. 日本交通心理学会第 60 回大会, (1999.10).

1998年

講演

宮崎勲・松永勝也・志堂寺和則: 圧・光変換装置による身体動揺測定システムの検討. 身体動揺研究会第 5 回大会, (1998.4).

石川雅士・志堂寺和則・松永勝也・野瀬康弘・江渕和久: 立体画像対の融合輻輳角範囲の個人差について. 日本バーチャルリアリティ学会第 3 回大会, (1998.8).

井谷国敬・松永勝也・志堂寺和則・石川雅士: 左右眼の凝視点に関する実験的検討. 日本バーチャルリアリティ学会第 3 回大会, (1998.8).

井上朋紀・志堂寺和則・松永勝也: 人間の認知・反応時間と単一 P300 の潜時との関係. 情報処理学会第 57 回全国大会, (1998.10).

宮崎勲・松永勝也・志堂寺和則・伊藤大輔: 足底圧変化からみた人の姿勢制御特性. 情報処理学会第 57 回全国大会, (1998.10).

1997年

論文

志堂寺和則・早見武人・野瀬康弘・北村文昭・松永勝也：周辺視領域の刺激に対する反応の加齢効果. 九州大学大学院システム情報科学研究科報告, Vol.2, No.1, pp.65-70, (1997.3).

早見武人・志堂寺和則・松永勝也：画像処理に基づく眼球運動測定システム—画像濃度対象性を利用した瞳孔中心検出アルゴリズム—. 九州大学大学院システム情報科学研究科報告, Vol.2, No.2, pp.235-239, (1997.9).

講演

早見武人・志堂寺和則・松永勝也：画像方式眼球運動測定装置において注視点較正に角度補正を用いる方法. 情報処理学会第 55 回全国大会, (1997.9).

井上朋紀・志堂寺和則・松永勝也：加算平均波形をマザーウェーブレットとしたウェーブレット変換による単一誘発脳電位分析. 情報処理学会第 55 回全国大会, (1997.9).

T. T.Blackmon, Y. F. Ho, K. Matsunaga, T. Yanagita, L. W. Stark: Eye movements while viewing dynamic and static stimuli. The 19th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Chicago, IL. (1997.10).

早見武人・志堂寺和則・松永勝也：画像方式による両眼眼球運動測定装置の開発. 電気関係学会九州支部第 50 回記念連合大会, (1997.10).

宮崎勲・松永勝也・志堂寺和則：足底圧分布測定装置の開発. 電気関係学会九州支部第 50 回記念連合大会, (1997.10).

1996年

講演

野瀬康弘・松永勝也・志堂寺和則・北村文昭・有川裕子：視覚的仮想現実感環境における疲労について. 九州心理学会第 57 回大会, (1996.11).

早見武人・野瀬康弘・志堂寺和則・北村文昭・松永勝也：周辺視領域に提示された刺激に対する反応時間. 九州心理学会第 57 回大会, (1996.11).

その他の研究

2003年

論文

古井陽之助・松永勝也・志堂寺和則：WWW とファイルシステムの双方向リンクによる共同作業支援. 九州大学大学院システム情報科学紀要, Vol.8, No.1, pp.43-48, (2003.3).

Y. Furui, K. Matsunaga, K. Shidoji: Discussion over a shared file system. Proceedings of HCI International 2003, Human-Centered Computing: Cognitive, Social and Ergonomic Aspects Volume 3, pp. 709-713, (2003.6).

Y. Furui, K. Shidoji, K. Matsunaga: Issues in reviewing on-line discussion logs and their solutions. Proceedings of 2003 IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics, (CD-ROM: 2003.10).

2002年

論文

2001年

論文

橋本晴行・松永勝也・南里泰久:1999年6月福岡水害における氾濫水の挙動と水害体験者の対応・意識. 自然災害科学(J.JSNDS), Vol.20, No.1, pp.43-58, (2001.6).

1999年

論文

講演

1998年

講演

林理・松永勝也・久保信子:再建は「しきり」で決まる. 日本心理学会第62回大会, (1998.10).

1997年

論文

松永勝也:普賢岳火山災害、阪神・淡路大震災、風倒木に対する関係住民の意識調査から見た突発災害に対する人の行動特性. 電力土木, No.271, pp.3-7, (1996.9).

松永勝也:立体視. 基礎・要素技術／システム編マルチメディア標準テキストブック (画像処理教育振興協会), pp.221-232, (1997.10).

講演

林理・松永勝也・久保信子：都市計画は防災じゃない？ 日本心理学会第 61 回大会，(1997.9).

1996年

論文

松永勝也：希に発生する爆発的な自然活動に人は対処できるのか．九州大学西部地区自然災害資料センターニュース，No.15，pp.2-3，(1996.9).

北村文昭・松永勝也・柳田多聞・武藤郁和・織田潤里・大田一也：雲仙・普賢岳災害避難時の子供の意識調査．九州大学西部地区自然災害資料センターニュース，No.15，pp.10-13，(1996.9).

松永勝也：突発災害に対する住民の意識と行動．九州大学西部地区自然災害資料センターニュース，No.15，pp.13-17，(1996.9).